

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和2年7月31日（金）10時00分～12時10分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、宇野課長補佐、知見主任安全審査官、松井安全審査官、高松専門職、伊藤係長、市森係員、長崎技術参与、高木技術参与

福島第一原子力規制事務所

木村原子力防災専門官、木村原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当12名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、以下の説明があった。
 - 福島第一原子力発電所1号機原子炉建屋オペフロ上ダストモニタ点検
 - ✓ 1号機原子炉建屋オペフロ上ダストモニタにおいて過去に気密モータ異常事象及びろ紙送りモータ異常事象が発生した。前者への対策として改良型気密モータへの取替え及びソフト改造作業を、後者への対策としてローラ一部の分解清掃を実施する予定。
 - 1号機原子炉格納容器(PCV)内部調査にかかる干渉物切断作業の状況
 - ✓ 7月7日にグレーチング切断作業を開始するためアプレシブウォータージェット装置を起動させたところ、研磨材供給ラインにおいて、研磨材供給に必要な負圧が確保できない事象が発生したことから作業を中断した。
 - ✓ 調査の結果、研磨材供給用ホースの劣化が進行しノズルユニット接続部が割れたこと及びノズルユニット本体の仕様が異なっていたことが原因であると推定している。
 - ✓ ホース割れへの対策として、新しいホースに交換するとともに、専用箱での保管による保管時の劣化防止及びノズルユニットとの接続部の保護チューブ及び保護テープによる補強を行う。ノズルユニットの仕様の異なりへの対策として、交換用ノズルユニットの全数識別管理及び分解点検による仕様の確認を行う。装置に異常が無いことを確認後、グレーチング切断作業を開始する予定。
 - 2号機PCVの減圧機能確認の結果
 - ✓ 7月6日からガス管理設備の排気量を増加させてPCVを減圧する操作を実施し、8日夕方にPCV圧力が均圧に到達したことを確認した。パラメータに異常が無いことを継続的に監視し、9日朝に復旧操作を実施した。
 - ✓ ガス管理設備の排気量を増加させた際、ガス管理設備中の水素濃度及び酸素濃度の低下を確認した。
 - 3号機燃料取り出しの状況について
 - タンク建設進捗状況
 - ✓ 再利用分の溶接型タンク内の未処理水（Sr処理水）は、ポンプインターロック以下の残水約4,000m³を除き、本年8月上旬頃に処理完了予定である。
 - ✓ ALPS処理済水タンク底部においてスラッジの堆積が確認された事象を踏まえ、その他のALPS処理済水タンクのうち代表タンクの内面調査を実施した。その結果、底部にスラッジの堆積が確認されたのは、G3エリアのタ

ンクのみであった。G3エリアのタンクは2013年に既設ALPSで処理した貯留水を入れていたタンクのため、当該時期の処理状況等について確認する。内面調査を行っていない他のタンクについても、今後の点検においてスラッジ堆積の有無を確認する。

- 再利用タンク水の分析結果を踏まえたタンク利用方針について
 - ✓ タンク容量確保のため、水抜きが完了した未処理水（Sr処理水）タンクのALPS処理済水タンクとしての再利用を進めている。再利用に当たり、硫化水素対策としてタンク底部の残水及びスラッジを回収しているが、タンク側板等については、手の届く範囲でスラッジ回収を実施している。
 - ✓ 再利用タンクのうち満水となったG3-H群及びK2-B群について、残留する放射性物質の影響を確認する観点から、タンク水の放射性物質濃度分析を実施したところ、告示濃度限度比総和はいずれも1を超えた。
 - ✓ 今後再利用タンクに貯蔵するALPS処理済水の放射性物質濃度を大きく増加させないため、スラッジの影響を低減する等の方策を検討した上でタンクの再利用を行い、ALPS処理済水を貯蔵するタンク容量を確保していく。
- 3号機T/Bサービスエリア床面への水路設置について
 - ✓ 3号機T/Bサービスエリアにおけるモルタル流入事象により、床面に広がったモルタルがサービスエリアに流入した地下水等を堰止めする形となったため、サンプルットに地下水等が集水されず、床面露出維持が困難な状況となっていた。このため、ピットに地下水等を導く水路を構築する作業を実施し、7月15日に作業を完了した。
 - ✓ 今後、サンプル内への滞留水移送装置の設置を進めていく。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、
 - 2号機PCVの減圧機能確認について、ガス管理設備の排気量増加時に水素濃度及び酸素濃度が低下した原因を定量的に説明すること
 - 再利用タンクに貯蔵するALPS処理済水について、放射性物質濃度を低減するための対策を含め適切な管理を行うこと等を求めた。

6. その他

資料：

- 福島第一原子力発電所1号機原子炉建屋オペフロ上ダストモニタ点検について
- 1号機PCV内部調査にかかる干渉物切断作業の状況
- 2号機原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の結果について
- 3号機燃料取り出しの状況について
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール
- 汚染水対策スケジュール
- 水処理設備の運転状況、運転計画（2020年7月17日～2020年8月6日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2020年7月17日～2020年7月30日）
- 各エリア別タンク一覧
- 汚染水等構内溜まり水の状況（2020.7.23時点）
- タンク建設進捗状況
- 再利用タンク水の分析結果を踏まえたタンク利用方針について

- 3号機 T/B サービスエリア床面への水路設置について（モルタル流入事象への対応）
- 建屋内における残水等の状況について